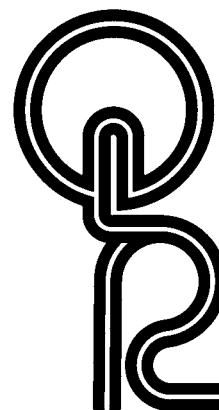


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 22 No.1, 2015



グアテマラのセイバル遺跡 (BC1000 – AD900) では、マヤ文明の盛衰と環境変動の関係を  
探るプロジェクトが進行中である。写真は発掘中の神殿ピラミッド。現在は熱帯季節林に  
覆われているが、繁栄期には森林は減少していた。(那須浩郎)

Vol. 22 No. 1

February 1, 2015

2015年大会案内 (第2報).....2	国際シンポ報告.....4
地球惑星科学連合 2015年大会案内 .....2	自然史まつり報告.....6
INQUA 名古屋大会案内 .....3	臨時幹事会議事録.....6
学術賞受賞者の言葉.....4	第4回幹事会議事録.....6
	会員消息.....8

### ◆日本第四紀学会 2015年大会案内 (第二報)

- 日程：2015年8月29日(土)・8月30日(日)  
29日 評議員会、一般発表(ポスター)、学会賞等表彰式、懇親会  
30日 シンポジウム、総会、一般発表(ポスター)
- 開催場所：早稲田大学 早稲田キャンパス  
(最寄り駅 地下鉄東西線「早稲田」、都電荒川線「早稲田」)
- 大会実行委員長：久保純子

INQUA 名古屋大会のひと月後ということで、会期は例年より短く、一般研究発表の形式はポスターのみとなります(1人1件、2日間を通じての掲示を予定)。

発表等の申し込みと予稿原稿の投稿は2014年大会と同様にインターネット経由とします(締め切りは6月上旬を予定)。

詳細については次号の第四紀通信と学会ホームページに順次掲載していきます。

### ◆日本地球惑星科学連合 2015年大会のお知らせ

2015年5月24日(日)～5月28日(木)に幕張メッセで開催される日本地球惑星科学連合2015年大会の発表申し込みが1月8日から開始しております。多くの会員のみなさまが第四紀学会主催/共催のセッションで発表して下さることを心よりお待ちしております。

大会に関する詳細は <http://www.jpгу.org/meeting/> をご覧ください。

主な日程は下記の通りです。

- 1月8日(木) 投稿・参加登録開始
- 2月3日(火) 投稿早期締切(～24:00)
- 2月18日(水) 投稿最終締切(～12:00)
- 3月12日(木) セッションプログラム(コマ割り) web公開
- 3月30日(月) 発表プログラム web公開(予定)
- 5月12日(火) 事前参加登録締切(～17:00)
- 5月14日(木) 予稿 web公開(予定)

第四紀学会では

- ・H-QR23 ヒトー環境系の時系列ダイナミクス を単独開催します。また、
- ・S-SS28 活断層と古地震 を共同主催します。

昨年度まで共催していた「平野地域の第四紀層序と地質構造」は「ヒトー環境系」と統合されました。これまで「平野地質」に投稿されていた内容の発表は「ヒトー環境系」へご投稿下さい。

これらのほかに

- ・A-HW27 流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー
- ・H-SC24 人間環境と災害リスク
- ・M-IS25 津波堆積物
- ・M-IS23 ジオパーク を共催いたします。

申し込みの際に、「口頭講演もしくはポスター講演」または「ポスター講演」のいずれかを選択いただけます。

ポスター講演のみを希望される場合以外は、「口頭講演もしくはポスター講演」を選択してください。会員の皆様の積極的な参加を期待しております。

#### 【投稿料・参加登録料】

- ▶早期投稿：2015年1月8日(木)～2月3日(火) 24:00  
投稿料 ¥3,000/1件 (図の掲載 ¥500/1件)
- ▶通常投稿：2015年2月4日(水)～2月18日(水) 12:00(正午)  
投稿料 ¥4,000/1件 (図の掲載 ¥500/1件)

## ▶事前参加登録料 (2015 年 1 月 8 日～5 月 12 日)

## &lt;会員&gt;

一般全日程：	¥16,000	一般一日券：	¥10,000
小中高教員全日程：	¥8,000	小中高教員一日券：	¥5,000
大学院生全日程：	¥8,000	大学院生一日券：	¥5,000

## &lt;非会員&gt;

一般全日程：	¥24,000	一般一日券：	¥20,000
小中高教員全日程：	¥15,000	小中高教員一日券：	¥12,000
大学院生全日程：	¥15,000	大学院生一日券：	¥12,000

## ▶当日参加登録料 (2015 年 5 月 24 日～5 月 28 日)

## &lt;会員&gt;

一般全日程：	¥22,000	一般一日券：	¥15,000
小中高教員全日程：	¥12,000	小中高教員一日券：	¥8,000
大学院生全日程：	¥12,000	大学院生一日券：	¥8,000

## &lt;非会員&gt;

一般全日程：	¥27,000	一般一日券：	¥22,000
小中高教員全日程：	¥17,000	小中高教員一日券：	¥15,000
大学院生全日程：	¥17,000	大学院生一日券：	¥15,000

## ◆国際第四紀学連合第 19 回大会 (INQUA 名古屋大会)

## 要旨投稿の受付が終了しました。巡検の受付を始めています。

要旨投稿の受付を 2014 年 10 月から開始し 12 月 20 日に締切る予定でしたが、投稿状況が良くない事から 2015 年 1 月 8 日まで延長致しました。最終的に 74 の国と地域の 2095 名の方々から、総計で 2564 件の要旨投稿がありました (2015/1/13 現在)。この内日本からの投稿は、425 名の方々から 487 件にも及びます。締切最後の 2 日間で 1000 件を超える投稿があり、予想を大幅に超える結果となりました。正に嬉しい悲鳴です。投稿して頂いた皆様、コンピーナーの皆様、また投稿を促して頂いた皆様、厚く御礼申し上げます。また同時に受け付けていた参加補助も INQUA 分と LOC 分を合わせて、600 件を超える応募がありました。要旨の受理や参加補助の結果は、2 月上旬に投稿者・申込者に連絡の予定です。

受理になった要旨は、2 月末締切の早期登録料の支払いで、採択が決定します。お忘れなきようお願い致します。また登録料免除になった方々は支払いの必要はありません。手続き等は登録料免除採択通知をご覧ください。

申込受付が遅れていました巡検も、すべての巡検で申込受付を始めています。開始後 2 週間ほどで、満席になった巡検もあります。是非この機会を利用して、海外からの研究者と一緒に現地で討議ができる巡検にご参加下さい。

ブースなどの申し込みの受付も 2 月から開始の予定です。皆さんの機関やプロジェクトで是非ご活用ください。

今後とも引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

大会の和文ホームページ：<http://inqua2015.jp/j/>

大会の公式ホームページ：<http://inqua2015.jp/>

大会の Facebook：<https://www.facebook.com/INQUA2015>

募金のご案内：<http://inqua2015.jp/j/support/donation.htm#howto>

◆学術賞受賞者の言葉

受賞にあたって

阿部彩子



このたび、名誉ある第四紀学会学術賞を受賞いたし身の引き締まる思いです。研究を続ける上で多くの皆さまにこれまでお世話になり激励していただきここまで来られました。博士学生の頃からの個人的研究として進めてきた氷期間氷期サイクルのメカニズム研究と、MIROC 大気海洋結合モデルによる古気候変動研究や国際プロジェクト遂行の、両方を評価していただいた形だと思います。今後一層の精進と、第四紀関連の研究にさらなる貢献をすることを自分自身に課さねばいけないと感じております。

氷期間氷期サイクルに関連した研究をする最初のきっかけは、大学で阪口 豊先生、鈴木秀夫先生、米倉伸之先生に氷河期とそこから現在に至る地球各地の環境変遷について学んだことです。消えた氷河の痕跡や、変化した海水準の評価やそれによって発達した地形変遷などを追う魅力を感じましたが、「なぜそんな変化が起きたのだろう」とどうしても調べたくなり、結局、学部の専門を地球物理学／気象学に転向しました。大気海洋大循環モデルを開発して地球温暖化予測や古気候解析に応用する研究をプリンストン大学の真鍋先生が世界の先頭に立ってされていることをゼミで知り、修士のときにスイス ETH の大村 纂先生の氷河の質量収支と第四紀変化の集中講義を聞き、さらに博士課程でスイスで学ばせていただき氷河やグリーンランドの氷床を観測する幸運に恵まれました。これまでの研究環境や恩師や同僚のお陰でここまで研究してきたと深い感謝を覚えます。

今回の1つ目の受賞対象になった氷期間氷期サイクルのモデリングでもっとも苦心したのは、数学的にはいろいろ構築されてきたシンプルで氷期サイクルモデルと現実世界で起きている物理的な「観測」されている現象とを結びつけることでした。先人の美しい数学的モデルやよくできた簡易地球システムモデルなどいろいろありますが、モデルで表したこととフィールドで目に見える現実を結びつけて理解する助けにする余地がまだまだあります。また考慮すべき事象も、天文学的要素や氷床流動や固体地球応答や大気プロセスの他、炭素循環や植生や海洋循環プロセスなど多岐にわたっております。今後さらに対象や時代を広げて氷期サイクルのからくりを研究していきたいと思っています。

2つ目の仕事として、地球温暖化予測にも用いる日本の気候モデル (MIROC) を古気候研究に応用することは一種のベンチマークテストの役目をするだけでなく将来気候変化と過去に起きた変化を結びつけて見比べる役割を担っています。IPCC 第五次報告書第一部会第五章(古気候情報)の執筆陣には、本当に今起きている気候変動／気候変化が特別なことなのか、科学的にどこまで過去の情報が将来に活かされるのか、客観的に評価 (アセス) する作業が課せられました。過去の情報が将来に活かされるはず、と自分で信じていてもそれを説明するとなるとうまくいかず力不足を思い知らされました。今後は、様々な地球システム要素を適切に取り込む気候モデリングというツールと計算機を縦横無尽に使って、フィールドで動かぬ証拠として明らかにされる第四紀変動と将来予想される気候変化の両方の理解をよりシームレスにしていきたいと思いを強くしています。今後も皆様のご指導とご協力を頂きながら研究に取り組んでゆく所存です。

◀受賞件名：「氷期・間氷期サイクルと古気候モデリングに関する一連の研究」▶

◆JAQUA 国際ワークショップ “Paleoecology and Human Behavioral Adaptation around the LGM in Eurasia (3rd LGM workshop in Tokyo)” 開催報告

出穂雅実 (首都大学東京大学院 人文科学研究科)

2014年11月28日、首都大学東京南大沢キャンパスにおいて、日本第四紀学会と日本第四紀学会2014年度研究委員会「最終氷期最盛期における北東アジアの生態系変遷と人類の応答」(代表者：出穂雅実)の主催、日本学術振興会科学研究費基盤(B)「環日本海北部地域の最終氷期最盛期における人類社会の形成と変化」(研究代表者：出穂雅実)

および同科研究費基盤(B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」(研究代表者：高原 光)の共催で国際ワークショップを実施いたしました。当日は、以下の口頭発表9件およびポスター発表2件が行われました。

10:50-11:00 Masami Izuho: **Introduction.**

Session 1: Greater Northeast Asia (Chair: Yuichi Nakazawa)

11:00-11:20 Buvit, I, and Izuho, M.

: **Recent Fieldwork Around the LGM in NE Asia.**

11:20-11:40 Zwyns, N., Bolorbat, T., Flas, D., Khatsenovich, A., M., Odsuren, D., Smith, K., Paine, C.H., Purevjal, K.-E., Dogandzic, T., McPherron, S. P., Katz, D., Stewart, J.R., Talamo, S., Gunchinsuren, B.

: **The Beginning of UP in Northern Mongolia: New Results and Perspectives from the Open-air Site of Tolbor 16.**

11:40-12:00 Teyssandier, N., Gunchinsuren B., Izuho, M., Zwyns, N., Antoine, P., Braga, J., Discamps, E., Duranthon, F., Lkundev, G., Menard, C., and Tsendendorj, B.

: **Introducing the Havstgayt valley: Archaeological Survey and the Upper Paleolithic in North-Eastern Mongolia.**

12:00-13:30 Lunch Break

Session 2: Japan (Chair: Ian Buvit)

13:30-13:50 Takahara, H., Hayashi, R., and Sasaki, N.

: **Vegetation in the Last Glacial Maximum on a Mountain Range near Lake Biwa, Western Japan-based on Plant Macrofossil and Pollen.**

13:50-14:10 Nakazawa, Y.

: **Technological and Behavioral Characteristics of the LGM Hunter- Gatherers in Hokkaido.**

14:10-14:30 Terry, K., Izuho, M., Oda, N., Buvit, I., and Ferguson, J.

: **Adaptive Network Strategies and Landscape Use: Preliminary Results of Geochemical Obsidian Sourcing and Tool Consumption During the Last Glacial Maximum in Hokkaido, Japan.**

14:30-14:50 Takakura, J.

: **Identifying the Pressure Microblade Production Using the Fracture Wings: Recent Research from the Middle Upper Paleolithic Hokkaido, Northern Japan.**

14:50-15:10 Iwase, A.

: **A Preliminary Use-Wear Analysis on Chipped Stone Tools from the LGM Microblade Assemblage in Hokkaido: the Obarubetsu 2 Site as a Case Study.**

15:10-15:30 Break

Poster Session (Core time: 15:30-15:50)

P-01 Kawai, T., Takahara, H., Kotaki, A. Sasaki, N., Hayashi, R., and Nakagawa, K.

: **Vegetation Changes from MIS3 to MIS2 Between the Inland area and the Sea of Japan area, near Kyoto, Western Japan.**

P-02 Oda, N., Izuho, M., Ferguson, J., and Glascock, M.

: **Obsidian Compositional Studies at the Upper Paleolithic Site of Minamimachi-2, Hokkaido (Japan).**

15:50-17:30 Discussion (Chair: Ian Buvit)



口頭発表の様子

ワークショップには合計 20 名が参加し、北東アジアの最終氷期最盛期 (LGM) の人類行動と古生態に関わる様々な報告がなされました。国別の口頭発表者 (筆頭) は、アメリカ 3 名、フランス 1 名、日本 5 名でした。9 件の口頭発表および 2 件のポスター発表が終了した後、INQUA 名古屋大会で予定している LGM セッション (H-03) での研究課題の絞り込みと共有を目的とし、徹底的な討議が 2 時間近く行われました。この討議では、まず人間行動と文化変化に関するグループと、古生態およびジオアーケオロジーに関するグループに分かれてそれぞれの研究課題を洗い出し、その後、それらを統合して課題の順序づけを行いました。今回のワークショップの目的を達成するために積極的に討議に参加いただいた会員みなさまに厚く御礼申し上げます。今後は、これまでの研究委員会での活動を踏まえ、7 月のセッションを成功させるために準備を進めたいと思います。

## ◆「自然史まつり in いばらき」参加報告

2014年11月23日、ミュージアムパーク茨城県自然博物館（茨城県坂東市）において、「自然史まつり in いばらき」が開催された。このイベントは、日本の自然史科学関連の39の学協会（日本第四紀学会を含む）が加盟する自然史学会連合が主催して行われた。自然史学会連合では、一般を対象とした講演会を開くのが毎年の恒例行事となっており、2013年より講演会と同時にブース型体験教室も開いている。今回、この2回目のブース型体験教室「体験！わくわくミュージアム」に、筆者が日本第四紀学会を代表して「顕微鏡を使って小さな化石を楽しもう！」を出店してきたのでここに報告する。

ブース型体験教室は、午前中の講演会終了後の13時から16時30分に開かれ、9つの団体が出店した。日本第四紀学会のほかの出店団体は、日本地質学会、日本人類学会、日本鱗翅学会、日本菌類学会、日本藻類学会、日本蘚苔類学会、茨城県自然史博物館、茨城県自然史博物館ボランティアであった。分類群の名前を冠した学会名からも分



顕微鏡につけたモニタを前に質問する参加者とスケッチに挑戦する参加者

齋藤めぐみ（国立科学博物館 地学研究部）

かるように、それぞれ専門とする生物を持ち込んでの体験教室を開いていた。筆者は、会場に顕微鏡を持ち込んで、珪藻や放散虫といった微化石の観察会を開いた。やる気のある参加者には、微化石のスケッチにも挑戦してもらった（写真）。「第四紀」の理解を広めることには直接つながらなかったと反省するところはあるものの、参加者には初めて観る小さな化石に関心を持ってもらえたようである。一方で、ほかの学会のブースでは、さまざまな生物の観察のほか、海藻押葉のしおり作り、きのこのストラップ作り、鱗粉の転写などお土産をもらえる教室を開いているところもあった。ちなみに、生物を学会名に含まない日本地質学会は、台所にあるものを使った火山噴火実験の実演を行っていた。

会場は茨城県立自然史博物館のセミナー室で、9つのブースを並べても十分な広さがあった。茨城県立自然史博物館の方々には、テーブル、椅子、ポスター掲示のためのパネル、電源、水道などを用意していただいた。ここに、645名の参加者が入れ代わり立ち代わり訪れ、大変盛況であった。小学生以下の子どもとその家族で参加している人が多いようだった。参加者へのアンケートによれば、多くの人が楽しかった、また同様のイベントをやってほしいと回答している。

次回は、2015年秋ごろに三重県立博物館で開催するとのことである。次回の出店については、2014年の筆者の反省点を参考にご検討いただきたい。生物分類群の名前を冠した非常に分かりやすい学会に囲まれたなかで、第四紀学会としての立ち位置を明確にすることは難しい。それでもなお、第四紀学会を一般にアピールする場として活用していただきたいと思う。

## ◆日本第四紀学会 2014 年度臨時幹事会議事録

日時：11月24日 10:00～12:30

場所：明治大学グローバルフロント10階(410M室)

出席：小野会長、吾妻、北村、藤原、水野

オブザーバー：遠藤

1. 地層処分技術 WG の再開に伴う委員の再任に

ついて行い、委員を推薦しないこととした。依頼者への返答は、北村幹事が原案を作成することとした。

2. だいやんき Q&A へ投稿された質問への対応を検討した。

## ◆日本第四紀学会 2014 年度第 4 回幹事会議事録

日時：2014年12月27日（土） 10:00～17:50

場所：東京大学総合研究博物館3階第一演習室

出席：小野会長、吾妻、奥村、北村、齋藤めぐみ、佐藤、藤原、水野、米田

欠席：出穂、卜部、岡崎、小森、齋藤文紀、宮内

### 幹事長（水野）

1. 日本土壤肥料学会からの「土壌教育に関する要望書」提出にあたって、第四紀学会に賛同の依頼があり（141105）、これを了承した（141113）。

2. 資源エネルギー庁から地層処分技術 WG 再開に伴う委員の再任についての依頼があり（141112）、対応を臨時幹事会（141124）で審議し、回答文書

### ■報告事項

を送付した(141128)。

3. 評議員会案内と学会賞等選挙書類を評議員へ送付した(141210)。

#### 庶務(北村)

1. 第三回幹事会議事録を送付した(141104)。
2. 大学評価・学位授与機構からの国立大学教育研究評価委員会専門委員の候補者の推薦依頼があり、評議員に配信したが(141114)推薦はなかった。
3. 臨時幹事会の議事録を送付した(141125)。

#### 庶務(佐藤)

1. 株式会社雄山閣から辻 誠一郎(1997)縄文時代の移行期における陸上生態系、第四紀研究、36-5の図1の転載許可願(転載先:『別冊季刊考古学』雄山閣)があり(141021)、これを許可した(141031)。
2. 田島靖久氏から田島靖久他(2013)テフラ層序による霧島火山、新燃岳の噴火活動史、第四紀研究、52の図3の転載許可願(転載先:「霧島火山群、最近3万年間のテフラ模式露頭の提案」『火山』日本火山学会)があり(141027)、これを許可した(141031)。
3. 伊藤大樹氏(技報堂出版)から江坂輝弥(1972)自然環境の変貌—縄文土器文化における、第四紀研究、11-3の図1の転載許可願(転載先:『逃げないですむ家とまちをつくる』技報堂出版)があり(141028)、これを許可した(141031)。
4. 中島 礼氏から森脇 広(1979)九十九里浜平野の地形発達史、第四紀研究、18の図9の転載許可願(転載先:『茂原平野の地質』(5万分の1地質図幅))があり(141030)、これを許可した(141107)。
5. 三木いずみ氏(日経BP社)から松田時彦他(1968)活断層、第四紀研究、7-4の図1およびMachida, H. (1999) Quaternary Widespread Tephra Catalog in and around Japan: Recent Progressの図1の転載許可願(転載先:『変動地形学入門』日経BP社)があり(141110)、これを許可した(141116)。
6. 遠藤邦彦氏から安藤他(1996)武蔵野台地北部の開析谷沿いにおける埋没地形面群、第四紀研究、35の図6および鴨井幸彦他(2006)越後平野における砂丘列の形成年代と発達史、第四紀研究、45の図1・3および松島義章(2010)完新世における温暖種が示す対馬海流の脈動、第四紀研究、47の図1および青木かおり他(2008)鹿島沖海底コアMD01-2421の後期更新世テフラ層序、第四紀研究、47の図2および石綿しげ子(2004)東京湾北部沿岸域の沖積層と堆積環境、第四紀研究、43の図5および町田 洋(2009,2013)地球史の現代:第四紀の研究(概説)、デジタルブック最新第四紀学の図1の転載許可願(転載先:『日本の沖積層—未来と過去を結ぶ最新の地層—』富山房インターナショナル)があり(141111)、これを許可した(141120)。
7. 石森孝志氏(八王子市長)から小林達雄他(1971)野川先土器時代遺跡の研究、第四紀研究、10-4の図4および表紙の転載許可願(転載先:『新八王子市史』通史編1 原始・古代、八王子市)があり(141210)、これを許可した(141219)。

8. 2015年学会賞・学術賞選考委員候補として10名を選出した。

9. 2015年論文賞受賞者選考委員会委員候補として11名を選出した。

#### 企画(出穂、小森、米田)

1. 2015年2月1日に開催される学会賞・学術賞受賞者による記念講演会のポスターを作製することとした。
2. 2014年11月28日に開催したJAQUA International Workshop on Paleoecology and Human Behavioral Adaptation around the LGM in Eurasia (3rd LGM workshop in Tokyo)の報告書を出穂会員が作成することとした。
3. 講演会・講習会の開催を検討し、次回幹事会で検討することとした。

#### 渉外(吾妻・宮内)

1. INQUA開催に合わせた名古屋大学博物館での普及講演のための経費150万円を、平成27年度科学研究費助成事業(研究成果公開促進費)「研究成果公開発表(B)」に申請して捻出することとし、計画調書を提出した(141114)。
2. 平成27年度日本地球惑星科学連合大会における第四紀学会主催セッションとして「ヒト—環境系」(旧セッション「平野地域の第四紀層序と地質構造」を統合)、共催セッションとして「活断層・古地震」を提案し採択された。
3. 自然史学会連合総会(12月8日東大総合研究博物館)に出席した。主な議題は、2013年度会計決算、子供向け自然史本の出版、一般向け講演会(三重県立博物館)、連合としての要望書の承認手続きプロセスなどである。
4. 自然史学会連合主催の「自然史まつり in いばらき」が2014年11月23日に開催され、齋藤めぐみ会員がブース型体験教室「体験! わくわくミュージアム」で日本第四紀学会のブース「顕微鏡を使って小さな化石を楽しもう!」を開いた。

#### 広報(齋藤めぐみ)

1. JAQUA International Workshop on Paleoecology and Human Behavioral Adaptation around the LGM in Eurasia (3rd LGM workshop in Tokyo)の詳細を学会HPに掲載した(141117)。

#### 編集(卜部・藤原)

2014/9/6(柏大会)以降について

##### 1. 編集状況

編集委員会は、第1回を平成25年9月27日、第2回を11月22日に開催。

第四紀研究第53巻第5号、第6号を刊行済。

第54巻第1号を編集中(論説1、短報2、講座1、書評1)。

##### 2. 2014年柏大会特集号

シンポII「更新世・完新世の資源環境と人類:小野 昭ほか」が進行中(11編程度を予定)。

シンポIV「東アジア~北西太平洋における第四紀の気候と環境変動:公文富士夫ほか」についても特集号となる見込みで調整中。

3. 投稿・処理状況は12月19日現在、手持ち原稿は、9編(論説5、短報1、総説1、資料1)。内訳は受理3、査読中5、リジェクト1。



■ 審議事項

1. 会員の入退会について  
入会 4 名を承認し、退会 4 名を確認した。
2. 2014 年度事業中間報告については担当幹事からの報告を評議員会資料に収録することとした。
3. 2014 年度会計中間報告について検討し、会誌発行費が何号分かについて確認することとした。INQUA の募金依頼の通信費を学会通信費から支出することを確認した。
4. 特別委員会「ジオパーク支援委員会」の設置承認について検討し、設定期間は 2015 年 1 月から 2016 年 8 月とし、目代会員に委員会の業務を確認した後、次回の評議員会に諮ることとした。
5. 層序単元登録審査委員会への委員として、長橋良隆会員を推薦することとした。
6. 学会賞・学術賞受賞者選考委員および論文賞・奨励賞受賞者選考委員の選挙の開票を佐藤、米田幹事が行い、結果を幹事に報告することとした。
7. 学会賞・学術賞受賞者および論文賞・奨励賞の公募を学会 HP に掲載することとした。
8. 会費長期滞納者は次回評議員会までに未納入の場合は除籍とすることを確認した。
9. 2015 年大会の実施内容・スケジュールについて検討した。詳細は本通信の 2015 年大会案内参照。  
・発表形式はポスターのみで、ポスターは一人一

- 件とし、順番は対象別にすることとした。
- ・若手・学生発表賞に関しては、口頭若手部門と口頭学生部門がないので、受賞者率を上げることとした。
  - ・INQUA の発表のポスターの展示用のスペースを設け、Abstract を要旨集に付録として掲載するように INQUA と調整することとした。
  - ・参加費・要旨集込みで 2000 円とすることとした。
  - ・シンポジウムの詳細を次回幹事会までに準備することを連絡することとした。
10. 以下の通信評議員会に関する会則変更を検討し、次回評議員会に諮ることとした。  
第 13 条に以下の第 5 項を追加する。  
「会長が必要と認める場合には、通信をもって評議員会を開催し、3 分の 1 以上の返信をもって成立させることができる」。
  11. 「だいよんき Q&A」に関する対応を検討し、内容によって回答できない場合のあることを確認した。また、学会 HP の「だいよんき Q&A」の説明に「だいよんき Q&A 質問フォーム」の説明文を加えることとした。
  12. 2015-2016 年度評議員選挙管理委員会を立ち上げるために、幹事会から選挙管理委員の候補者を推薦した。
  13. 組織改革案について意見交換した。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。  
 広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。  
 第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ  
 〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX：029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局  
 〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階  
 株式会社春恒社 学会事業部内  
 E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176